公表

事業所における自己評価結果

事業所名 児童発達支援 POCCO音の泉しょうわちゅうおう

公表日 2024年12月20日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		活動に、充分な広さである。	必要ない部屋には鍵をかける。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		法で定められた配置人数を守っている。	配置人数は守られているが、日によっては不 足を感じている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、パリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		利用者には見やすく理解しやすい環境となっている。パリアフリー等、適切となっている。	改善点はその都度職員間で話し合い、解決で きている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		毎朝の清掃、消毒を行っている。エアドッグ やエアコンの清掃も定期的に行っている。	エアコンの清掃は業者に依頼し、定期的にお 願いする。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認めら れる環境になっているか 。	7		クールダウン等、必要に応じて相談室を利用 している。	適宜、外出(散歩・ドライブ等)も取り入れる。
	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、 広く職員が参画しているか。	7		午前中の時間を使い、振り返ることができている。パート職員も都度、連絡ノート等を使い共有している。	職員全員で同じ目標を持ち、より良い支援へ つながるよう、小さなことも報告し合う。
***	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設け ており、その内容を業務改善につなげているか。	7		評価表をもとに、ミーティングを行っている。良いことも改善点も共有し話し合っている。	月一ミーティングを行う。
業務改善	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善に つなげているか。	7		小さなことも話し合うことを心がけている。 また、グループLINEを利用し意見を共有する 機会を作っている。	全員が「聞いていない」ごとがないように、 連絡ノートを使う。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている か。	7		見学を常に受け入れ、評価をいただく機会を 設けている。	どんな意見も真摯に受け止め、改善に努め る。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で 研修を開催する機会が確保されているか。	7		職員研修は定期的に行われ、参加できている。毎回、職員全員ではないが、出られなかった職員にも内容を伝えている。	なるべく全員が研修参加出来るよう、前もっ て日程を知らせていく。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		事業所の年間プログラムを作成し、公表して いる。	一年を三期に分けて作成している。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者 のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成 しているか。	7		モニタリング時には、保護者に課題をいただき、新しい計画へ取り入れている。	保護者と話す機会を作り、ニーズを知るよう に心がける。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		事業所の中で、担当者会議を開き計画を話し 合う機会を作っている。	個々のできたところを共有している。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われ ているか。	7		計画はケア記録を入力するときに目にすることができるので、身近に感じられている。	事業所内の担当者会議で話し合う際、確認し ている。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		適応行動を知るために、職員間で情報共有に 努めている。	他の事業所の職員とも情報交換、情報共有している。
適切な支援の提	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		具体的な支援内容を設定している。また、相 談員と連携をとっている。	分かりやすい支援内容にするよう、具体的な ものを設定する。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		プログラムがマンネリ化しないよう、考えている。	職員を中心に考えている。作業療法士の意見 も取り入れている。

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。		子どもたちが興味を持てるような内容を考え ている。	月の歌は季節に合ったものを選んだり、運動 療育委員会のプログラムを積極的に取り組ん
			7	集団の活動がメインとなっている。状況に応	でいる。 「臨機応変に対応している。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児 童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7	乗回の店動がメインとなっている。 れんだにんじて個別対応も取り入れている。	が は高が成心を (こが)心し ている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の 内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行ってい るか。	7	毎回、活動の前に打合せしている。役割分担 もそれぞれ活躍できるもので行っている。	その場での急な変更にも対応できている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援 の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	毎回、振り返りを行っている。	気づいた点は、その場で話し、情報共有している。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善に つなげているか。	7	ケア記録を当日の夕方までに入力し、なるべ く当日中に公開している。	その日の写真と共に記録をしている。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性 を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	半年ごとのモニタリングで、見直しを行って いる。	保護者からも意向をいただく。
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議 に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	責任者が主に参加している。得た情報は職員間で周知している。	出来るようになったことを大いに情報共有している。
	25	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、 教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	関係者会議には、できるだけ参加している。 それぞれの意見を聞き支援に役立てているの で、連携できていると感じている。	会議の後は、職員間で情報共有する。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の 観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども 園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報 共有と相互理解を図っているか。	7	相談員を交えた会議で、各方面の意見を聞い ている。	それぞれで理解につながっている。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、 支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	関係者会議に参加し、情報共有行っている。	関係者会議には、積極的に参加する。
関係		(28~30は、センターのみ回答)			
機関や	28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携 を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
保護者	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受け たり、職員を外部研修に参加させているか。			
との連携	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			
Di	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	7	児童発達支援センターと併用している利用者 が多いので、関係者会議の際は意見をいただ く機会がある。	いろいろな児童発達支援センターへ伺いながら、意見や助言をいただく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		現在は、行っていない。ただ、お誘いがあったり、そのような機会があった場合は積極的に ったが加したい。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や 課題について共通理解を持っているか。	7	送迎の際、活動の様子をお伝えしている。また、できるようになったことを共有し、課題もお話しできている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	5月から療育の場面を見学できる機会を設けている。また、親子参加の音楽サーキットを取り入れ、多くの保護者に参加いただいている。	引き続き、親子参加型の活動を考えていく。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を 行っているか。	7	契約時にお伝えしている。	分からない点は、その都度ご質問いただき、 対応する。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	事前にご家族の意向をお聞きしている。また、説明し計画にご捺印いただいている。	丁寧な説明を心がけていく。

	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者 から児童発達支援計画の同意を得ているか。		計画を作成し、その都度お伝えしている。	分からない点は、その都度ご質問いただき、 対応する。
保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応 じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	送迎時、音の泉で過ごした様子や家庭での様子を伺うようにしている。 困りごと等は、その都度相談に乗るようにしている。	半年に一度のモニタリング時に、お話しを伺 う。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	保護者の中には、交流を望む声もある。保護 者の負担にならないような交流を考えていき たい。	今後は利用申し込みの際、保護者の交流も兼 ねていることを知らせ、参加を募っていく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	事業所の公式LINEをお伝えし、いつでも連絡 が取れるようにしている。	契約時に公式LINEを登録していただくようお 知らせしている。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	POCCOの公式LINE、インスタグラムをお伝えし、活動の様子を発信している。	定期的にインスタグラムに活動の様子を発信 していく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	職員全員が責任を持っている。	個人ファイルは、鍵付きロッカーで管理している。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮 をしているか。	7	特性を理解し、保護者対応を気を付けてい る。	職員で話し合い、共通理解に努めている。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を 図っているか。	7	年に一度は、外部の方を招いて『マンドリン』を披露していただいている。	毎年の恒例行事としていきたい。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感 染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するととも に、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	定期的に事業所内で行っている。訓練を行った際は、ケア記録やインスタグラムでお知らせしている。	引き続き、定期的に行っていく。
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	洪水発生を想定し、垂直非難の訓練を行った。 定期的に行っている。	非常災害の備蓄品を準備している。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認し ているか。	7	契約時に、保護者より申し出てもらっている。	発生時の対応について、事業所内に掲示し、 周知している。
非常	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応 がされているか。	7	契約時にアレルギーについての同意書をいた だいている。	全職員で共有できるよう掲示している。
時等の対応	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	安全管理の意識を全職員で持ち、支援を行っている。	危険個所は、小さなことでも確認し合い対処 している。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全 計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	契約時に緊急時連絡引き渡しカードの記入を お願いし、保管している。	緊急時持ち出しセットと同じ場所へ保管して いる。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について 検討をしているか。	7	月に一回の責任者会議において、他事業所と も共有している。事業所に持ち帰り、検討し ている。	全職員と共有している。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応を しているか。	7	社内で適正化委員会を中心に職員研修を行っている。	様々な事例を共有している。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に 決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児 童発達支援計画に記載しているか。	7	契約時に保護者に分かりやすく説明し、同意 書をいただいている。	やむを得ず、行われそうな子どもには、個別 支援計画へ記載する。